北海道大学附属図書館報

掬 香

The Hokkaido University Library Bulletin No. 43 Jan. 1977

専門職としてのライブラリアン

経済学部教授 真 野 脩

大学図書館との御付合いは，もう25.6年になる。随分長く御世話になったものである。最初は単に図書の貸出係ぐらいに思っていた図書館の方々が，実は研究者にとり不可欠の人達であることを知ったのは，最初に奉職した大学での経験であった。或る日たまたま訪れた図書館の事務所で，私は，図書館の職員を対象とした講習会のパンフレットを見出した。当時国内では余り研究されていなかった問題と取組み，関係文献や資料の体系的収集に苦心していた私は，パンフレットの内容に興味を持ち，その講習会に出席させてもらった。

いわゆるレファレンス関係のその講習会で，私は，国会図書館の課長さん方から，それぞれの分野についての学説の系譜や最近の研究傾向と，それに基づく文献の集め方や資料の調べ方を伺った。またアメリカ文化センターの図書関係の方から，英文図書や資料調査に関する一通りの手解きを受けた。僅か一日の講習会であり，専門の職員の方から見れば，ほんの初歩的な知識なのであろうが，それは，その後の私にとっては，実に有益なものとなった。それと共に，専門のライブラリアンが学ばなければならないものの奥深さを垣間見る思いがした。

そうした私の経験からすると，今日の大学図書館では，広い意味でのレファレンス業務がもっと大きなウエイトを占めるべきではないかと思われる。豊かな予算を前提に，同じ文献を多数揃えて，本を消耗品的に扱うことが許されず，反面出版件数では，世界でも代表的な多さを持っているわが国では，本当に有益な本や資料を体系的に選択し，探し求めるための知識や便益の提供が，もっとも重視されるべきではなかろうか。

ところが現在の大学図書館には，そうした制度の発達を促す基礎が欠けているようである。官庁における事務職員の昇進昇給は，専ら各種の職場を転任して行く過程において行われるが，図書館の場合も例外ではない。同一職場に長く居る人は，昇進昇給から取り残される傾向が強い。確かに行政官として，全体的視野を持っ人を育てるのには，この制度は有効であろう。しかし，体系的に文献を調べ，資料収集の道をつけ，学生や研究者の相談相手となれるよう人材の育成は，この制度では不可能である。同一職務に留まりながら昇進昇給が順当に行われる専門職としてのライブラリアンの制度の確立が望まれる所以である。

ただこうした制度の重要性は，その便利さに浴した人々程よく理解できるものである。

レファレンス・サービスの便利さと重要性は，専門家には常識であっても，学生を始め一般の人々には馴染の薄いものである。年に一度づつでも，出版目録やCummulative Book Indexなどの現物を前にした文献・資料の探し方や利用の仕方の一般向けの講習会を開くことなども考えるべきかも知れない。衆知を集めれば，もっとよい知恵が出て来るかも知れない。今やそれが必要とされている秋ではなかろうか。

◆会　議

第50回 教養分館委員会

<と　き　昭和51年12月9日(水)>
<ところ　教養分館長室>

議題 1. 建物新設(増築)に伴なう設備費の要求について
2. 報告事項
3. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と　き　昭和51年10月7日(木)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 外国雑誌購入契約について
2. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と　き　昭和51年10月29日(金)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 1977年度外国雑誌予約契約について
2. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と　き　昭和51年12月13日(金)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. ISSNについて
2. 外国雑誌後金払の支払状況について
3. その他

◆研　修

第22回近世史料取扱講習会に参加して

小山千恵子

この講習会は昨年10月25～29日，国立史料館主催で国立教育会館にて開催された。資格は「図書館，文書館，研究所，史誌編纂室等の機関に勤務し近世史料の整理及び調査研究等に従事している者で，その経験年数の比較的浅い者」であり，参加者は全く史料を扱ったことがない者，地方史誌編纂，郷土史研究などを通じて実際に史料に接している者合わせて40名余りであった。

講習の内容は概論，読解，取扱い，補修，整理分類に分けられ，国立史料館の見学を含んでいた。テキストは会場で用意されており，講義は1時間～1時間半の単位である。各時代の史料概論に続き，読解は幕藩史料，村方史料，町方史料に分けて各講師が要点を解説してくれた。近世史料を判読できることが前提になるわけではあるが，そのために必要な基礎知識を得ることに主眼がおかれているように思われた。後半は取扱い方で，実習をまじえた補修の時間には講師のあざやかな手ぎわを拝見することができた。受入れ整理分類まで近世史料が実際にどの様に取扱われているかについて講義を受けた後，国立史料館を見学したのであるが，ダンボールに山と積まれた一見紙屑同様のものが最終的には整然と書架に並んでいるのをまのあたりにして，史料館の熱意と努力が感じられた。

なお，あらかじめこの講習会に参加するに際して近世史の予備知識をもっていればと思ったことであった。

(閲覧課参考掛)

ISSN について

去る，12 月 1，2 日の両日国立国会図書館連絡部国際協力課の川添主査が来学され標記についての説明会を 12 月 1 日図書館会議室で行ない，更に翌 2 日には学内関係方面を廻り熱心に説明に当られた。

本学ではこの取扱いについては，未登録逐次刊行物及び今後発刊される逐次刊行物の登録を図書館がまとめて登録手続きを行なうこととし，現在学内の実態を調査中である。

附属図書館教養分館の増築について

昭和 46 年以来概算要求を続けて来た教養分館の増築は，昭和 51 年度工事として 10 月着工の運びとなり現在工事中です。

規模としては，現在の建物総面積 2,406.11 m^2 に増築工事 2,291.82 m^2 が進行されており，これが完成すると，合計 4,697.93 m^2 で現在の約 2 倍の大きさの建物となります。

また，現在の 3 階建てを 4 階建てとして，南側へ 11.5 m，これは 4 階建ての形で延長され，書庫は現在規模の床面積で隣接される新設 7 層に，加えて既設上増し 2 層で，これも 2 倍以上になる予定です。従って閲覧室および閲覧席の増設は勿論のこと，特に 4 階には，視聴覚室，語学演習室，演習室，視聴覚資料室を含む視聴覚センターを予定しています。

竣工予定は 52 年 3 月末の予定でしたが諸般の事情から 52 年 7 月末頃までの予定で進められております。

（教養分館閲覧掛）

附属図書館外国雑誌購入業務機械化計画について

このことについて，本館，整理課学術情報資料掛では外国雑誌一括購入業務処理を第一次とし，次いで洋雑誌受入整理等も将来の計画として考えている。

そのメリットとしては，

1) 機械処理により業務の合理化は勿論，発注関係等でかなりの省力化が期待できること。
2) 複写・転記・計算・照合・各種リスト作成等の事務が確実，迅速に処理できること等があげられる。以上のことから，第一次計画の中の一つである外国雑誌購入リスト作成業務を電算機により打出すこととなった。

実施日程

システム移行のスタートが 51 年 12 月に限定したので実施計画を次のように定めた。

	予　定	実　施
1) 業務分析・仕様書決定	51. 8. 1～ 8.31	51.10.20～10.30
2) 各コードの決定	51. 9. 1～ 9.14	51.11. 1～11. 6
3) プログラミング	51. 9.15～10.14	51.11. 7～12.10
4) 事務局とのマシン使用についての打合せ（マシンオペレーション等も含む）	51.10.15～10.21	51.12. 7
5) コーディング	51.10.15～10.21	51.11.10～12.10
6) データパンチ	51.10.22～11.15	51.12. 3～
7) マシンセット	51.11.25～12. 1	51.12.13 (3 時間), 12.16 (3 時間) 12.18 (3 時間), 12.21 (2 時間) 12.25 (2 時間), 12.27 (3 時間)
8) 初期データ作成	51.12. 2	51.12.13
9) テストラン	51.12. 3～12.23	51.12.16, 18, 21, 25, 27
10) 実施ラン	51.12.25	51.12.27～

この予定は日常業務と平行したため約2ヵ月遅延したが，他は計画どおり遂行した。

本館がこのような機械化を計画し，実施を進めるに当って，事務局関係各課の御協力を願ったことに感謝する次第であります。

また，昭和49年2月に「機械化準備班」が発足，外国雑誌の購入業務について種々検討され資料を揃えられましたが，このたびの計画に際し，これら資料等が参考となりましたので，誌上を借りて準備班の皆様の努力に謝意を表するものであります。

（整理課学術情報資料掛）

◆人 事 往 来

新図書館委員　高杉　光雄（理学部助教授）51.5.24付
配　置　換　阿部　貞夫 閲覧課参考掛（整理課総務掛）52.1.4付

昭和51年度北海道地区国立大学図書館職員研修の実施

昭和51年度の標記研修は，11月25，26の両日，図書館会議室を会場にして，道内各国立大学の図書館職員36名が参加して実施された。

この研修は，大学図書館職員に必要な知識を付与するとともにその資質の向上を計ることを目的とするものである。また，このたびの研修は時間数等の関係で研修歴として記録されないが，将来は内容，時間数等を検討の上更に充実したものにしたいと考えている。

なお，本研修の実施にあたり，関係機関の御協力を得，盛会裡に終了したことを感謝する次第です。

日程，研修内容は次の通り。

日　程　表

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
第1日 11月25日（木）	受付	開会挨拶 館長	英国図書館と我が国の大学図書館 図書館短期大学 助教授 松村多美子	昼食	大学図書館の今日的問題 関西大学教授 岩猿敏生		国の予算と契約 北海道大学経理部 主計課課長補佐 三浦淳平	映画 大いなる楡	
第2日 11月26日（金）		大学図書館業務の機械化 東京学芸大学附属図書館整理課長 田中久文		〃	日本経済と北海道 北海道大学附属図書館長 早川泰正	公務員の服務 北海道大学庶務部人事課課長補佐 岩沢健蔵	外国雑誌の購入をめぐる諸問題 北海道大学附属図書館整理課学術情報資料掛長 田中一郎		閉会挨拶 事務部長

北海道大学附属図書館報　「楡蔭」（通巻43号）
1977年1月28日 発行　発行人　斉木一郎
編集委員　坂東　慧（長）・横山梅雄・笹　哲夫・似鳥正吾・千葉哲夫・田中一郎
平田忠夫・坪田充弘・岡本憲吉・山本幾夫・高橋　裕
発行所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北8条西5丁目　電話代表 711-2111 (2967)
印刷所　文栄堂印刷所　札幌市中央区北3条東7丁目　電話代表 231-5560-5561